



日邦産業株式会社

(証券コード : 9913)

2022年3月期 第2四半期 決算補足資料

2021年 11月5日

代表取締役社長

岩佐 恭知

22/3期 2Q 連結業績 (1)

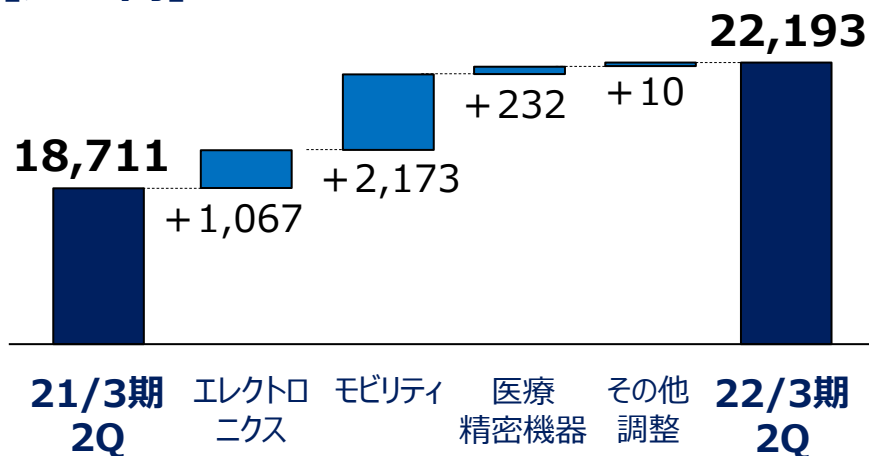


(単位：百万円)

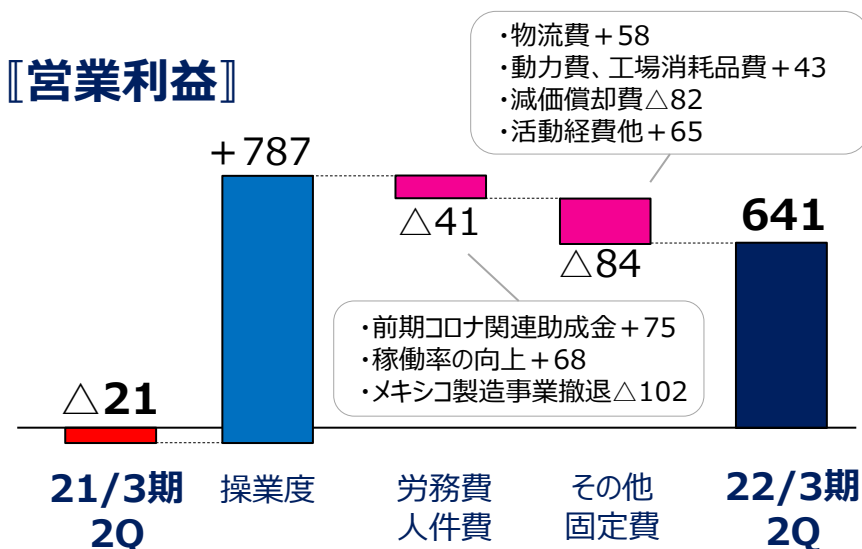
科目	21/3期 2Q	22/3期 2Q	前年同期比	増減額
売上高	18,711	※ 17,403 22,193	- 119%	- +3,482
営業利益	△21	641	-	+662
経常利益	△163	651	-	+814
四半期純利益	△901	467	-	+1,368

※「収益認識に関する会計基準（以下「収益認識会計基準」）」等を当会計年度より適用しております。売上高の下段および下記グラフの売上高は、前年比較のご参考として収益認識会計基準適用前の売上高を記載しております。

〔売上高〕

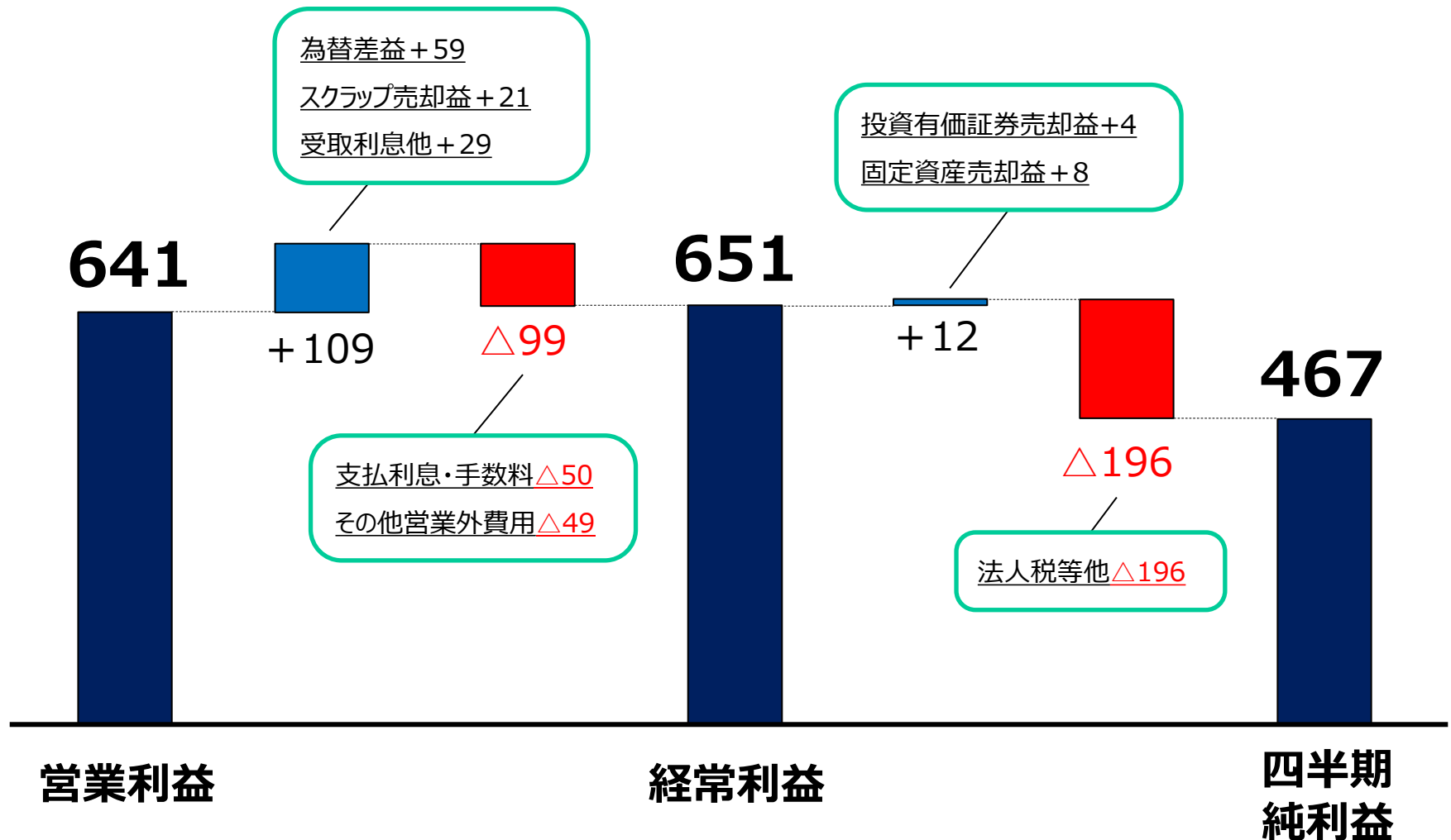


〔営業利益〕



22/3期 2Q 連結業績 (2)

(単位：百万円)



22/3期 通期業績予想

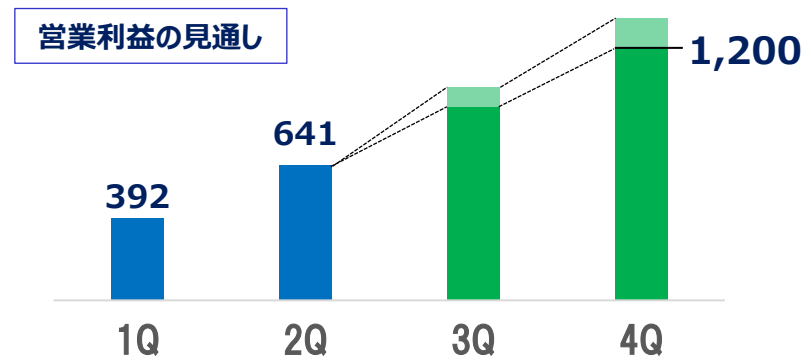
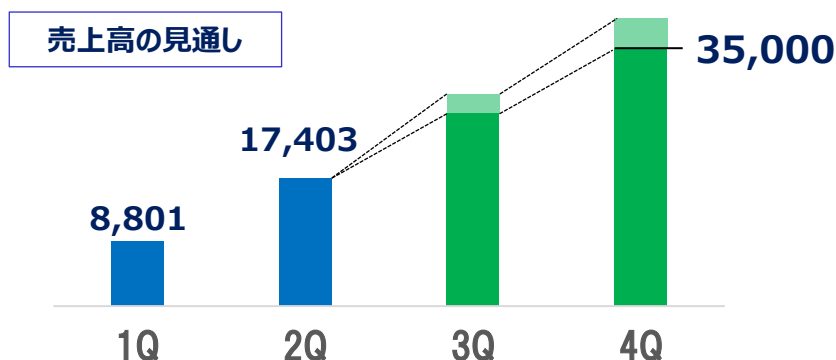


～サプライチェーン内に半導体・電子部品の供給不足という事業上の懸念リスクが継続していますが、このリスクが今以上に悪化しない限り、通期業績予想値は達成できる見込みです。～（単位：百万円）

科目	22/3期 2Q累計	22/3期 通期予想	22/3期 2Q進捗率	通期業績予想と年間配当金について
売上高	17,403	35,000	49.7%	1. 通期業績予想 2Qは、半導体・電子部品の供給不足と新型コロナウイルス拡大による生産活動の減産影響を各事業セグメントで受けました。3Q以降も同影響が懸念リスクとして継続しますが、各事業セグメントの2Qまでの進捗と3Q以降の各顧客の生産計画を踏まえ、2021年5月14日に公表しました通期業績予想を据え置いております。
営業利益	641	1,200	53.4%	
経常利益	651	1,130	57.6%	
当期純利益	467	800	58.4%	
年間配当金	—	20円		

■ 懸念リスクの影響を踏まえた通期業績予想

懸念リスクが改善した場合 ■ 実績 ■ 予想



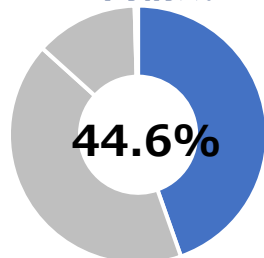
※本通期業績予想値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいた予想値であり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。通期業績予想の見通しに修正が必要と判断される場合は、改めて公表させていただきます。

セグメント別業績（エレクトロニクス）



売上高構成比

※セグメント別業績の売上高は、収益認識会計基準適用前の売上高を記載しております。（単位：百万円）



増収

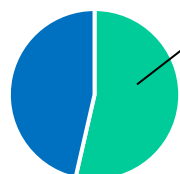
増益

	21/3期 2Q累計	22/3期 2Q累計	前年同期比	増減額
売上高	8,900	9,967	112%	+1,067
営業利益	504	651	129%	+147

2Qの業績概況

- 自動車、家電、電子機器向けの半導体・電子部品の供給不足を受け、各電子部品メーカーの増産活動が活況。これに伴い、スマートフォン関連部材や半導体材料の受注と、ウエハ研磨用キャリア事業の受注が堅調に推移。
- 一方、ベトナム工場のドライフィルム事業は、半導体・電子部品の供給不足の影響を受けた完成品メーカーの生産計画に遅れが生じたことより受注が減少。

売上高の進捗



2Q進捗
53.6%

	21/3期	22/3期(見通し)	前年比	増減額
売上高	18,268	18,600	102%	+332
営業利益	1,046	1,200	115%	+154

通期の見通し

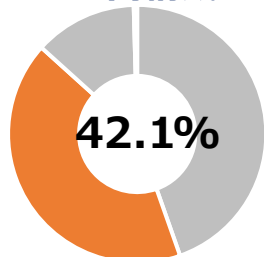
- スマートフォン関連部材や半導体材料の受注は、3Q以降も堅調に推移する見通し。
- 汎用配線板材料の受注は段階的に減少していくが、ハイエンド向けの配線板材料の受注増加でカバーできる見通し。
- ベトナム工場のドライフィルム事業は、顧客の生産計画の回復次第だが、需要の拡大に備えた生産能力増強（クリーンルームの拡張）の準備は完了。

セグメント別業績（モビリティ）



売上高構成比

※セグメント別業績の売上高は、収益認識会計基準適用前の売上高を記載しております。（単位：百万円）



増収

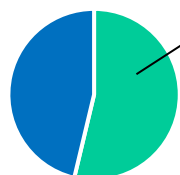
増益

	21/3期 2Q累計	22/3期 2Q累計	前年同期比	増減額
売上高	7,229	9,402	130%	+2,173
営業利益	79	613	776%	+534

2Qの業績概況

- 自動車メーカーにより回復の差はあるが、アセアンの各拠点の受注は、新型コロナウイルス拡大の影響を受けた前年に対して大幅に受注が回復。
- 稲沢工場のコイル部品の受注も、顧客の生産回復が進み堅調に推移。
- メキシコ製造事業撤退に伴い業績が改善。

売上高の進捗



	21/3期	22/3期(見通し)	前年比	増減額
売上高	15,963	17,500	110%	+1,537
営業利益	485	950	196%	+465

通期の見通し

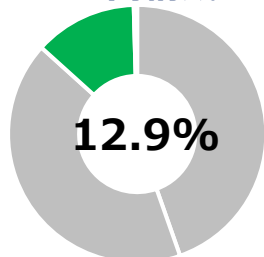
- 自動車用半導体の供給不足による減産影響は、2Qまでは比較的軽微であったが、3Q以降の影響が読み切れないこと、あわせて輸送船舶とコンテナ不足による物流コストの上昇懸念も発生している。
- 主要顧客の生産計画には、挽回生産も織り込まれているものの、懸念リスクにより先行きが不透明な状況が続くため、通期の見通しは保守的に読み込んでいる。

セグメント別業績（医療・精密機器）



売上高構成比

※セグメント別業績の売上高は、収益認識会計基準適用前の売上高を記載しております。（単位：百万円）



増収

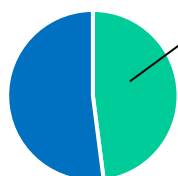
増益

	21/3期 2Q累計	22/3期 2Q累計	前年同期比	増減額
売上高	2,645	2,877	109%	+232
営業利益	△116	△ 93	—	+23

2Qの業績概況

- プリンター関連部品は、新型コロナウイルス拡大によるベトナム主要顧客の生産停止の影響と、電子部品の供給不足に伴う減産影響を受け、受注が大きく減少。
- 医療機器部品については、タイ（コラート工場）における受託生産が堅調に推移。

売上高の進捗



	21/3期	22/3期(見通し)	前年比	増減額
売上高	5,877	6,000	102%	+123
営業利益	△43	+0	—	+43

通期の見通し

- ベトナム工場のプリンター関連部品は、電子部品の供給不足の影響次第ではあるが、3Q以降に段階的に回復する見込み。
- タイ（コラート工場）の医療機器部品の受注は、引き続き堅調に推移する見通し。



参考資料

22/3期 2Q 連結貸借対照表



(単位：百万円)

科目	21/3期	22/3期 2Q	増減額
流動資産	13,727	14,465	+738
現預金	2,940	3,674	+734
受取手形及び 売掛金等	7,810	7,084	△725
たな卸資産	2,460	2,924	+464
その他	517	783	+265
固定資産	10,977	10,243	△734
有形固定資産	8,239	7,409	△830
無形固定資産	121	115	△6
投資その他の 資産	2,616	2,719	+102
資産合計	24,705	24,709	+4

科目	21/3期	22/3期 2Q	増減額
流動負債	12,549	11,716	△832
支払手形及び 買掛金	7,596	7,553	△42
短期借入金等	2,258	2,025	△233
その他	2,695	2,138	△557
固定負債	3,159	3,247	+88
長期借入金	515	561	+46
その他	2,644	2,686	+42
負債合計	15,708	14,964	△744
資本金	3,137	3,137	-
資本剰余金、利益剰 余金及び自己株式	5,587	5,963	+376
その他の包括利益 累計額	270	642	+372
非支配株主持分	1	1	△0
純資産合計	8,996	9,744	+748
負債・純資産合計	24,705	24,709	+4

日邦産業株式会社

経営企画部 水口、藤浪

電話 : 052-218-3161
E-Mail : ir@nip.co.jp
HPアドレス : <https://www.nip.co.jp/>

将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における弊社の業績が、現在の弊社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、弊社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、弊社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

なお、本業績見通しにおける為替レートは、1米ドル=105円、1タイバーツ=3.5円で計算しています。